

しんせい

「にわか」野鳥愛好家

今年4月から東北新生園に勤務しております。

3月に見学に参りましたところ、建物の中にまで野鳥の声が聞こえてくるではありませんか。東北新生園は、こんなにも自然が豊かなんだなあ、と感心しました。

しかし、実は録音された鳥の鳴き声で、入所者の方の中には目の不自由な方もいらっしゃるのですが、人が通るとセンサーが働き、場所によって異なる鳥の声を流すことで現在地が分かる仕組みでした。ウグイス、カッコウ、三光鳥、コガラ、コルリなど、どこかで聞いたことがあるような鳴き声ばかりです（三光鳥は初めて聞いたかもしれません…。）

最初の当直の時に気が付いたのですが、センサーは夜中でも働いており、0時すぎに廊下を移動していると、「ピーチク、パーチク」とやられて驚かされました。最近は慣れてきて、夜間の移動時はうるさくしないように、センサーのある場所では壁づたいに移動して鳥に鳴かれないように工夫しています。

私は子供の頃、川や森で遊ぶのが好きでしたから、野鳥の鳴き声には親しんで来たはずですが、興味がなかったためか、鳴き声と名前と姿がわかるのはウグイス、カッコウ、トンビくらいでした。東北新生園の鳴き声センサーには鳥の名前が書いてあるので、初めて「この鳴き声は〇〇だったのか」と認識することが出来ました。そうなるに急に興味が湧いてきて、何の声だっけ？と気になるようになりました。興味を持つと耳も良くな

るようで、自宅の庭に来訪する小鳥たち、近所の公園の鳥たちの声がよく聞こえてくるようになりました。梅雨前の季節には、庭の椿にヒヨドリが来ました（調べてみて名前が分かりました。）。結構うるさいとか、巣を守る番でいることが多いとか、外見は灰色っぽい大きなヒバリみたいだとか、取るに足らない知識が増えていくことに喜びを感じています。

冒頭では「野鳥の鳴き声」かと思ったら録音の「声」と申しましたが、実は当園では窓を開けるとホンモノの野鳥の声が聞こえてきます。今のところウグイス、ホトトギスなど、判別できた鳴き声はごくわずか。この声何だっけ、と調べるのが楽しくなってきました（もちろん、昼休み時間です。）。

やはり、東北新生園は自然が豊かな素晴らしい場所だったのです。



音声誘導装置



三光鳥

副園長 藤原 耕

目次 「にわか」野鳥愛好家	副園長 藤原 耕
リハビリテーションセンター遂に完成	補給係 野呂 哲彦
介護技術研修を開催して	第1メープルケアセンター 副看護師長 佐藤 美栄子
平成25年春の防火訓練を実施	庶務班長 中嶋 勝信
宮城県知事表彰を受賞して～「看護の日」看護功労者として～	第一病棟 准看護師 佐々木 貞子
夏風邪にご用心	臨床検査技師 佐藤 恵美子
山形県バス旅行に行きました。/第30回 高松宮記念杯近隣親善ゲートボール大会を開催	医療社会事業専門員 瀬川 将広

理念

入所者の人権を尊重し、
安心で安全な生活を提供します

基本方針

1. 快適な療養・生活環境を提供します
2. 安心で信頼される医療の充実に努めます
3. やさしい看護と介護を提供します
4. ハンセン病の正しい知識の啓発普及に努めます
5. 職員の教育・研修に努めます

入所者の権利

当園では、園の理念に基づき、入所者のみなさまの

- 人格を尊重される権利
- 良質な医療を受ける権利
- 十分な説明と情報を受ける権利
- 自己決定の権利
- プライバシーが保護される権利

を尊重します。

リハビリテーションセンター遂に完成

（仮称）

当園では、平成24年8月からリハビリテーションセンター建設のための工事が行われていましたが、平成25年5月に遂に完成し、同年6月からいよいよ稼働することとなりました。

このセンターは、リハビリテーションを必要とする入所者の方々が年を経るごとに増加することで手狭になってきていた機能訓練室の機能を、より充実させ、明るくゆったりとした環境の中で楽しみながら機能回復・維持訓練を行っていただくことを目的として建てられたもので、入所者と職員の双方にとって待ち望んでいた建物と言えます。



外部玄関入口



訓練室内（理学療法部門）

訓練室の広さは今までの1.6倍とかなりの広さとなっており、センターではこの広さを利用して、体操やゲーム、様々なレクリエーションなどを行う予定です。

さらに、新しい訓練室には、新しく購入した訓練器材や大画面のテレビを設置しており、入所者の方々に對して、より質の高いリハビリテーション治療とリラクゼーションを提供することが可能となっています。

そして、もう一つ特筆すべきことは、新設された言語聴覚療法室の存在です。これまでは各センターの面談室等を利用していましたが、この部屋の新設によって言語聴覚士による落ち着いた雰囲気の中で訓練が可能となりました。特に失語症や注意障害のある方にとっては、より効果的にリハビリテーション治療を受けることができます。

この建物の完成で、当園の今後のさらなる飛躍を象徴する建物となっていくものと期待しています。



訓練室内（作業療法部門）



開棟に合わせ披露された機能訓練室所属職員の新制服

介護技術研修を開催

平成 25 年 4 月、新採用者・職種変更者を対象に、介護技術研修を開催しました。

高齢で不自由度が増してきている入所者さんの介護は、食べる、排泄するに始まり、衣服の着脱、入浴など日常生活援助が主なものです。看護助手は、介護する上で必要な基本的な技術を身につけ、個別性を持った関わりが求められています。今までの介護技術研修は講義だけでしたので、配置されたところに行ってから、実際に入所者さんと関わる時の不安は大きかったようです。

そこで、今年から移動・移乗、食事介助、更衣について、基本的な介護技術の講義と演習を行いました。初めて副看護師長が介護技術研修の企画・準備、そして演習まで担当しました。私たちは基本的な介護技術を経験のない看護助手に対し「わかりやすい言葉を使いながら、どう進めていくか?」、「相手に理解してもらうためにどうすれば良いのか?」と悩み、話し合いをしながら資料作りをしました。演習は、何度もデモンストレーションを行いながら「この動きでわかるかな?」、「これで良いのかな?」と何度も繰り返して進め、企画に時間をかけました。実際に介護技術指導を行ってみると、研修参加者の中には電動ベッドや車椅子に触る事が初めての人、ベッド柵やリモコン操作の取扱い、車いすの構造や名称がわからないなどの話がありました。そのため、いろいろな事を覚えようと演習を積極的に行いました。

講義のみだけではなく、看護用品を目で見て触

ることのできる演習を取り入れた研修は、看護助手にとってわかりやすいものになったと思います。

私自身今回の看護助手研修を通し、再度学習する機会にもなり良い経験ができました。人に教える事は自分も学ぶ事だと改めて感じました。研修参加者からは、「演習が初めての経験で緊張した」、「実技の中で介助する側と、される側を体験する事で、どのような配慮が必要か知ることができた」、「入所者さんにあった介助の仕方になるべく早く身につけていきたい」との意見がありました。看護助手がこの研修で学んだ事を、入所者に関わる際、自信をもって援助していてもらいたい。そして継続的にフォローしていけるような職場環境作りに取り組んでいきたいと思います。



第1メープルケアセンター 副看護師長 佐藤 美栄子

平成25年春の防火訓練を実施

去る6月19日(水)、平日の日中を想定した防火訓練(総合訓練)を実施しました。今回の出火場所は、第1メープルケアセンターとだけ事前にお知らせし、何階のどこから出火するかは警報が発報し、放送を聞かないと分からないという設定で行いました。救出班の方々は迷い?ながらも現場に到着し、入所者(模擬)の避難を行うことができました。



避難誘導訓練

今回の訓練によって得た課題、問題点を検証し、有事の際に迅速な通報、避難誘導等が行えるように職員一人ひとりが自覚することによって、入所者の皆さんに安心して安全な療養生活を提供できるように今後も努力してまいります。

庶務班長 中嶋 勝信



消火器取扱訓練

宮城県知事表彰を受賞して～「看護の日」看護功労者として～

5月8日に村井宮城県知事より看護功労者の表彰を受けました。

思いもよらない事だったので、当日は、緊張して胸がドキドキ、知事さんとの歓談の時は何を話したのかよく覚えていませんが、知事さんの笑顔だけは今も覚えています。

私は、昭和44年に准看護学校を卒業し仙台の病院に就職、その後昭和54年から東北新生園にお世話になり現在まで働いてきました。当時は入所者の皆様も若く、花や野菜を造ったり、カラオケ大会・運動会の開催など活気があり、自分で傷の手当てなどしていました。その後、合併症が増加するとともに不自由度も高くなってきています。検査や治療方法も新しくなり、私にとって未経験のこともたくさんありましたが、看護師長や同僚にご指導をいただき無事勤めることができました。

今回の表彰は、園長先生をはじめ長い間支えてくれた職場の皆様、温かく見守り接していただいた入所者の皆様のお陰と思っています。本当にありがとうございました。これからも自分のできることを一生懸命頑張っていきたいと思います。



～村井嘉浩宮城県知事とともに～

第一病棟 准看護師 佐々木 貞子

夏風邪にご用心

夏風邪が流行する時期が来ました。

夏風邪は、冬の風邪と同様に体力（免疫力）の低下した体にウイルスが感染して起きる病気です。原因となるウイルスは、アデノウイルスやエンテロウイルスで、高温多湿な環境を好み、夏に活発に活動して感染・発症するものです。

また、「夏風邪はお腹にくる」と言われます。この多くの原因となるのは、エンテロウイルスです。エンテロとは、「腸」を意味する言葉で、腸でのウイルスの増殖による下痢や腹痛を伴い、喉の痛み、発熱等の全身症状を示します。

夏風邪と言うと、ついつい軽い風邪と考えがちですが、れっきとしたウイルス感染症で、症状が長続きしやすいので油断は禁物です。普段から、次のような夏風邪を予防する生活を心がけることが大切です。

■うがい、手洗いを習慣に！

外から帰ってきた時は、外でのウイルスを持ち込まないようにしましょう。

■部屋を冷やしすぎない！

冷房のかけすぎで体が冷えると、体温調節のバランスが崩れ、抵抗力や免疫力が低下します。

体を冷やし過ぎないように注意し、体への負担を減らしましょう。

■お腹を冷やさない！

お腹を冷やすことで全身の血の巡りが悪くなり、低体温を招くことから、免疫力が低下してウイルスに感染しやすくなります。バスタオルやタオルケットをお腹に掛けたり、腹巻を着用するなどお腹を冷やさない工夫をしましょう。

■タオルは清潔なものを使う！

湿ったところを好む夏風邪のウイルスは、手や顔を拭いたタオルからも感染します。タオルは、日干しを行い、紫外線でウイルスを殺して清潔にして使いましょう。

臨床検査技師 佐藤 恵美子

6月7日 山形県へバス旅行に行きました。

入所者自治会主催の春季バス旅行が実施されました。今年は山形県寒河江市へ向かいました。自治会の旅行としては、初めての山形県への旅行ということもあって17名の入所者が参加されました。

2時間強の道中でしたが、車内はとても賑やかで、あっという間に寒河江チェリーランドに到着しました。

レストランで昼食に舌鼓をうち、その後は道の駅にお土産を買いに向かいます。皆さん今回参加できなかった入所者へのお土産をたくさん購入されました。

笑顔で東北新生園に帰園された後には、土産話とお土産をもって園内の友人の居室へ向かって行かれました。

この日の宮城県の天気予報は曇りでしたが、ところにより雷を伴う雨が降るとの予報も出ており雨が心配されました。東北新生園を出発する時には小雨が降ってきましたが、大雨に濡れるようなことなく、皆さんバス旅行を満喫されたようです。



第30回 高松宮記念杯近隣親善ゲートボール大会を開催

開催日である6月25日は、ハンセン病の予防と救済に関心をよせられていた貞明皇后の誕生日で、1964（昭和39）年からはこの日を含む1週間が「ハンセン病を正しく理解する週間」となりました。

また、2009（平成21年）からは、6月22日が「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」と定められており、この日が含まれる前後は、各地でハンセン病に対する正しい知識の普及と差別撤廃の啓発活動が行われています。

今年は第30回という記念すべき大会で、新生園から職員チーム・入所者職員混合チームの計2チーム、宮城県内外からの48チームの合計50チームが参加し、新生園グラウンドにおいて開催しました。

当園実行委員会では、第30回記念大会ピンバッジを作り、また東北新生園と同じ登米市にある「石ノ森章太郎ふるさと記念館」のご厚意により、参加全チームにピンバッジとパンフレットを合わせて、記念品として送られました。

ご祝辞を登米市長布施孝尚様、宮城県ゲートボール連盟会長佐藤和夫様、迫町ゲートボール協会会長澤口良夫様より頂戴し、前大会優勝仙台ペガサスチームによる選手宣誓でゲームがスタートしました。

白熱した試合を制し鹿島台さつきCチームが今年の優勝杯を手に入れました。



開会式
(大会長挨拶、左奥は布施孝尚登米市長)



前年度優勝チームによる選手宣誓

記念品として贈呈した「石ノ森章太郎ふるさと記念館」のパンフレット、ピンバッジ及び大会記念ピンバッジ

職員募集

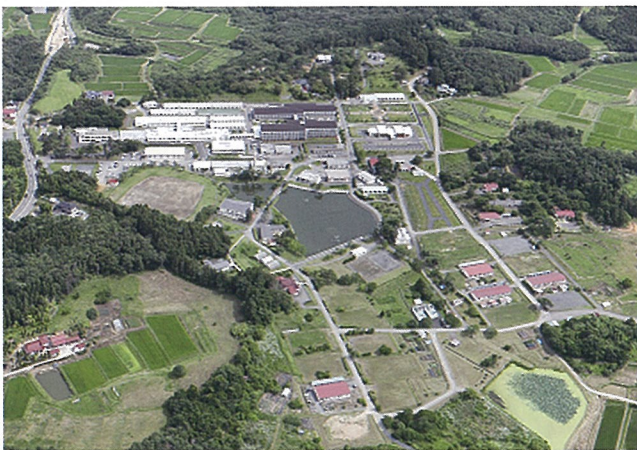
当園では、次のとおり職員を募集しております。採用を希望する方はお気軽にお問い合わせください。

1. 募集職種 **看護師 3名**
- 1) 身分 臨時的任用職員（育児休業者代替職員）
- 2) 採用期間及び採用人員
 ①採用決定の日～平成25年11月 7日 1名
 ② “ 平成25年12月31日 1名
 ③ “ 平成26年 3月31日 1名
- 3) 応募資格 看護師免許取得者
- 4) 勤務内容 看護業務（三交替制勤務、早出・遅出有り）
- 5) 給与等 一般職の給与等に関する法律等に定める給与、諸手当を支給します。
- 6) 加入保険等 国家公務員共済年金、共済組合保険に加入
2. 募集職種 **看護助手 3名**
- 1) 身分 期間業務職員
- 2) 採用期間及び採用人員
 採用決定の日～平成26年 3月31日
 雇用更新2回まで可（採用期間は年度単位：4月1日～次年3月31日まで）、3年経過後に再度公募で選考
- 3) 応募資格 介護施設等での実務経験年数2年以上（ヘルパー2級以上の有資格者は1年以上）
- 4) 勤務内容 介護業務（日勤業務、早出・遅出業務有り、配置場所によって当直業務あり）
- 5) 給与等 日額 7,372円 その他通勤手当、扶養手当等有り
- 6) 加入保険等 協会けんぽ、厚生年金保険
 採用1年経過後に、国家公務員共済年金、共済組合保険に加入
3. 応募方法
 市販の履歴書（写真貼付）、免許証（写）、修了証明書（写）、登録証（写）のいずれかを郵送又は持参ください。
4. お問い合わせ、応募先
 〒989-4692
 宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1
 国立療養所東北新生園 庶務課庶務班長 中嶋
 TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765
 E-mail 2302sy01@sinseien.hosp.go.jp

入所者数の推移

年度	入所者数			退所者数					平均入所者数
	再	新	計	軽快	死亡	転園	その他	計	
16			0		10			10	173.8
17			0		9			9	163.9
18			0		7			7	156.2
19			0		7			7	148.4
20			0		10			10	139.9
21			0		2			2	135.2
22			0		10			10	129.4
23			0		14			14	118.0
24			0		11			11	105.1
25			0		1			1	98.0

※25年度は平成25年6月30日現在



発行元 国立療養所東北新生園
 National Sanatorium Tohokushinseien

発行責任者 国立療養所東北新生園
 広報誌編集委員会

〒989-4692
 宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
 TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765
 URL <http://www.tohoku-shinseien.com/>
 E-mail admin@sinseien.hosp.go.jp